

「 平和憲法の大切さ 」

神戸市 手崎ひかり

私は、C・ダグラス・ラミスさんが書いた、「日本は本当に平和憲法を捨てるのですか？」を、初めて読みました。この本は題名のとおり、日本国憲法の第9条にある平和憲法を捨てないでほしいと思っているダグラスさんの願いがあらわれた本だと私は思いました。

本の最初には「多くの人が日本国憲法の第9条を捨ててしまうべきだと信じている。」とありますが、私はそう思いません。日本政府が第9条を平和憲法のみにして、国民のみなさんに協調したのですよね。私はそれは本当にありがたいことだな、と思います。

私は1996年生まれなので戦争は体験していませんが、社会の授業やニュースでたまに見ると、とても惨たらしいものだったのだと感じました。たくさんの方がお互いに殺しあっているのですよね？でも、平和憲法のおかげで戦争がなくなった。というより日本は戦争ができなくなったのです。まだまだ子供の私がこんな偉そうに言えることではないかもしれませんがまだまだ子供の私でも、平和憲法のすごさ、大切さはすごく分かります。

さらに、この本には「殺すのをやめること。これこそ9条が求めたことでした。」と、ありました。第9条を簡単に言うとそういうことなのかな、と思いました。少し怖い気もしますが、この憲法が公布されたときから今の段階まで、日本という国家の交戦権の下に殺された人は一人もいない、と言われていています。私は本当に殺し合いはよくないと思いました。必ず関係ない人までまきこんでしまうからです。そう思うとみなさんも平和憲法はありがたいことだと思いませんか？

だから私は、この本の作者C・ダグラス・ラミスさんの最初の問いかけ、「日本は本当に平和憲法を捨ててしまうのですか？」に、はっきりと「いいえ。日本は平和憲法を捨てるべきではない。むしろ捨てないでほしい」と答えます。世界には今も戦争をしている国があります。その国に平和憲法をつくってほしいと思います。